

福祉用具の効果的な導入の ためのガイドブック

平成20年3月

社団法人 日本福祉用具供給協会

このガイドブックの構成

1. ガイドブックのねらいと特徴
 2. ガイドブックの使い方
 3. 福祉用具の利用効果について
 - ・車いす
 - ・特殊寝台
 - ・歩行補助具
- ◆ 参考データ



1. ガイドブックのねらいと特徴

- このガイドブックは、「車いす」「特殊寝台」「歩行補助具」を対象として、用具利用による生活行動変化(ADL変化)の事例に基づいて、効果的な導入となる条件・ポイントを整理し、広く情報提供することを目的としたものです。
- 全国の福祉用具貸与事業所の協力により収集された約700件のモデル事例(約半年間の利用で「効果があった」と判断された事例)について、具体的な利用効果の内容を用具別に紹介しています。
- 利用の効果として、主に「ADLの向上」に注目していますが、「利用者本人の生活行動の変化や満足度」「介護者の負担の軽減、満足度」についても把握しています。

2. ガイドブックの使い方

- このガイドブックは、「車いす」「特殊寝台」「歩行補助具」の導入を検討する際の参考としていただくことを想定しています。例えば、次のような活用方法が考えられます。
 - ◇利用者の状態像(要介護度、ADL)に応じて、効果的な用具導入の判断材料とする。
 - ◇検討対象としている利用者が、当該の福祉用具を利用した場合に期待される、現在のADLに応じた効果や生活の変化について確認する。
 - ◇用具の導入を検討している利用者に対し、実際の利用効果の例として紹介し、利用による変化の具体的なイメージを把握していただく。

3. 福祉用具の利用効果について

車いす

- 利用効果の全体像
- 利用者本人に対する効果
- 介護者に対する効果
- 効果の事例

車いすの利用効果

～車いすを利用することにより、以下のような効果が期待されます～

【利用者本人にとっての効果】

ADLの向上

<効果の大きいもの>

- ・屋外移動
- ・(居室内)移動
- ・移乗

<効果のあるもの>

- ・排泄
- ・食事

要介護度の維持・改善

生活の変化

<用具の利用状況の変化>

- ・利用頻度が高まる
- ・利用時間が長くなる

<生活自立度の質的な変化>

- ・生活行動が意欲的になる
- ・活動時間が長くなる
- ・外出の機会が増える

満足度の向上

自立して生活しようという意識の高まり
社会とのつながりを感じる
自分のペースで生活しやすくなる
体を動かす機会が増え体調がよくなる
気兼ねなく気楽に生活できる

【介護者にとっての効果】

介護負担の軽減

屋外移動→ ◎身体的負担軽減
○時間の短縮・効率化
心理的負担軽減

居室内移動→◎身体的負担軽減
○時間の短縮・効率化
○心理的負担軽減

移乗→ ◎身体的負担軽減
○時間の短縮・効率化
心理的負担軽減

満足度の向上

- ・身体的負担が軽減し楽になる
- ・介護が効率化でき、時間が有効活用できる
- ・利用者の行動の広がり支援内容が充実
- ・介助に余裕ができコミュニケーションが充実
- ・利用者の状態の改善に満足
- ・心の余裕・人間関係の円滑化

車いすの利用効果

【利用者本人にとっての効果(1)】

- 372件の車いすの利用事例※から、以下のようなことが明らかになっています。
- 車いすの利用者は、要介護2～4の方が多く、それぞれ全体の2割程度を占めています。

※利用期間はケースにより異なりますがおよそ6ヶ月です。
※車いす以外の福祉用具を併用しているケースも含みます。
※他の介護保険サービスも利用しているケースも含みます。

車いす利用 事例の ADL改善の 状況

※詳細は次のページの
データをご参照ください

【屋外移動】

- ・該当事例243件中 102件が改善し、135件が維持しています。
- ・「全介助」→「一部介助」という事例が多いようです。
- ・「一部介助」→「見守り」「自立」となる例も多くありました。
- ・「行わず」→「一部介助」「全介助」の事例も多く、生活の変化につながっています。
- ・「行わず」「全介助」→「見守り」「自立」など、大幅に改善する例もあります。
- ・そのまま外へ出ることが容易な生活環境では、改善する割合が高くなっています。

【移動(居宅内)】

- ・該当事例176件中 80件が改善し、92件が維持しています。
- ・「全介助」→「一部介助」、「一部介助」→「自立」「見守り」、「見守り」→「自立」が多いです。
- ・「行わず」→「全介助」「一部介助」「見守り」の事例もあり、生活の変化につながっています。
- ・「行わず」「全介助」→「見守り」「自立」など、大幅に改善する例もあります。
- ・全体として「見守り」「自立」まで改善する例が多くなっています。

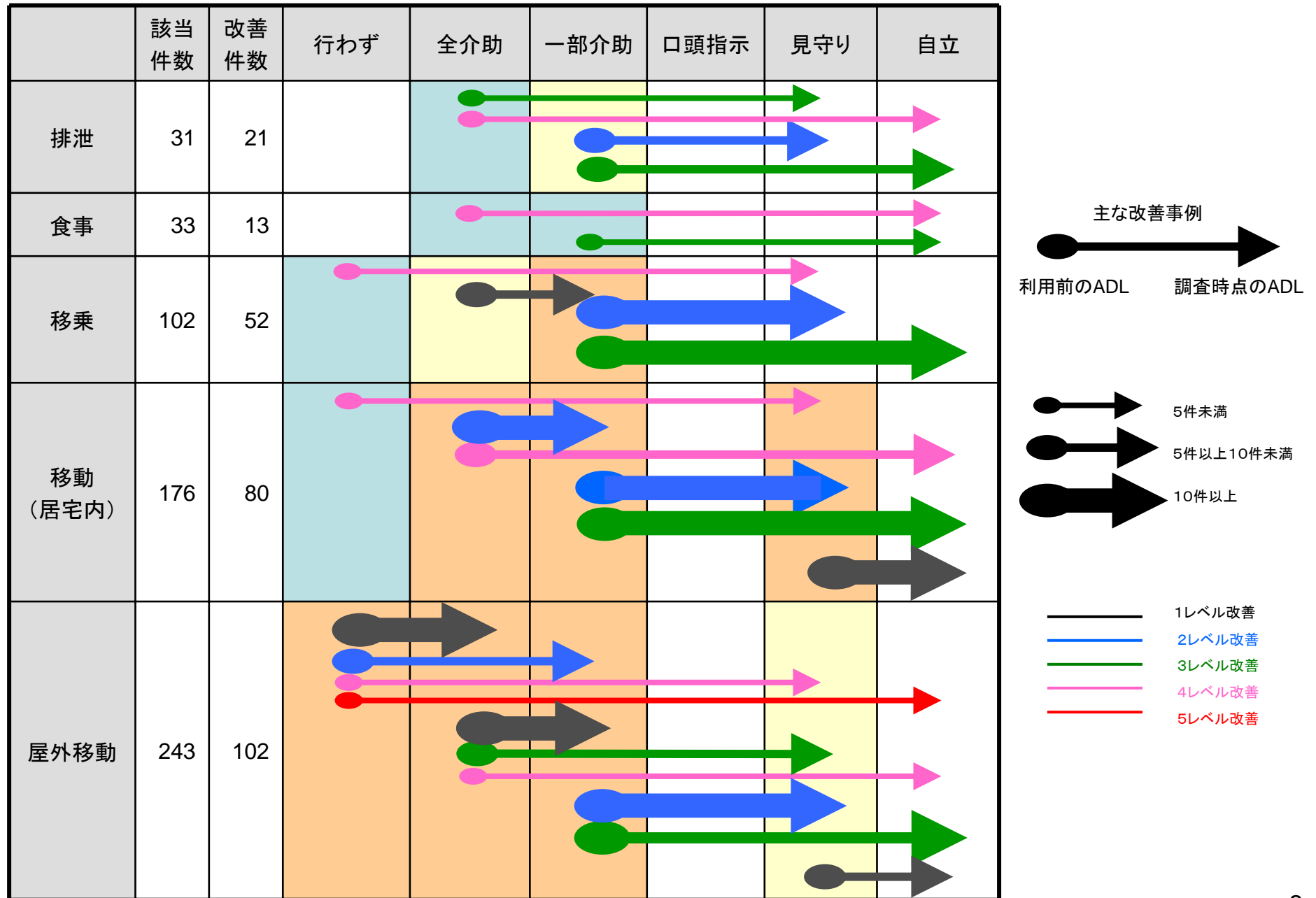
【移乗】

- ・該当事例102件中 52件が改善し、46件が維持しています。
- ・「一部介助」→「見守り」「自立」となる例が多くなっています。
- ・全体として、「見守り」「自立」まで改善する例が多くなっています。

【食事】【排泄】

- ・「全介助」「介助」から、「見守り」「自立」まで、大幅に改善した例があります。

参考データ:車いす利用事例のADL改善の分野と程度



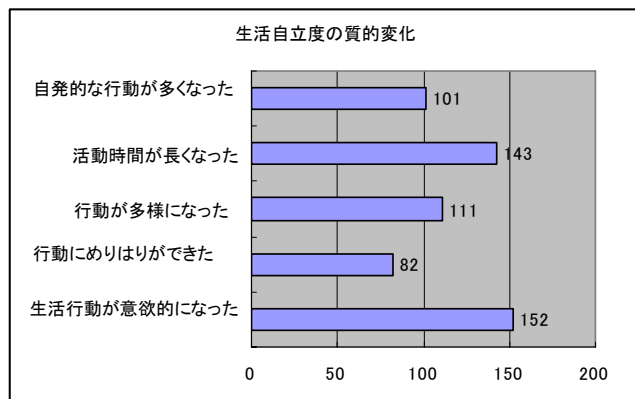
生活の変化

【車いす利用状況の変化】 (372件中)

- ・一週間の利用頻度が増加した:
件数55件 平均8.3回→9.4回
- ・1週間の利用時間が増加した:
件数59件 平均16.0時間→21.8時間

【生活の変化】

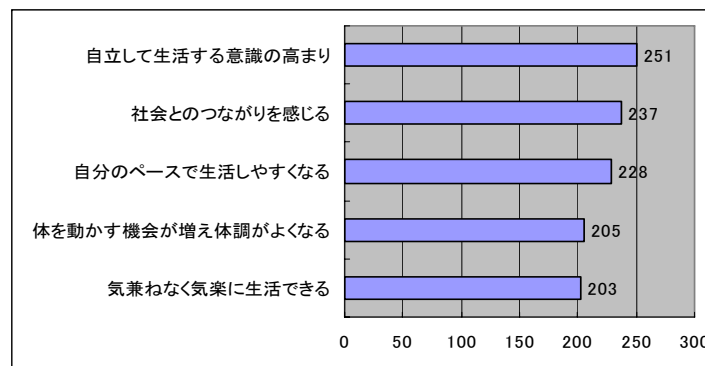
- ・生活自立度が向上した:83件
- ・生活の自立度の質的な変化:



- ・1週間の外出の頻度が増加した:
件数186件 平均2.4回→3.9回
- ・家族以外とのコミュニケーションが増加した:
件数119件 平均5.8時間→8.5時間/週

満足度の向上

【利用者本人の満足度】 (372件中)



「移動(居宅内)」が改善した場合には...

- ・「自立して生活する意識が高まった」
 - ・「家族や社会とのつながりが感じられるようになった」
- という回答の割合が高くなっています。

「屋外移動」が改善した場合には...

- ・「自立して生活する意識が高まった」
 - ・「体を動かす機会が増え、体調がよくなった」
 - ・「家族や社会とのつながりが感じられるようになった」
- という回答の割合が高くなっています。

一方、ADL改善が見られないケースでも

「家族や社会とのつながりが感じられるようになった」という効果が見られました。

車いすの利用効果(3)

【介護者にとっての効果】

- 372件の車いすの利用事例※から、以下のようなことが明らかになっています。
- 主な介護者は、利用者の子どもまたは子どもの配偶者で、50歳～70歳の女性が多くなっています。

※利用期間はケースにより異なりますがおよそ6ヶ月です。
※車いす以外の福祉用具を併用しているケースも含まれます。
※他の介護保険サービスも利用しているケースも含まれます。

介護負担の軽減

【移乗】

(372件中)

- ・「楽になった」件数:210件
 - 身体的負担の軽減 90件
 - 心理的負担軽減 28件
 - 時間の短縮 44件
- ・車いすと特殊寝台を利用している場合のほうがより負担感が軽減しています。
- ・利用者の移乗のADLが向上している場合に、特に負担感が軽減しています。

【移動(居宅内)】

(372件中)

- ・「楽になった」件数:207件
 - 身体的負担の軽減 139件
 - 心理的負担軽減 72件
 - 時間の短縮 62件
- ・車いすと特殊寝台を利用している場合のほうがより負担感が軽減しています。
- ・移動のADLが向上すると負担感は軽減しますが、悪化した場合でも、心理的負担軽減や時間短縮したという回答が3割程度ありました。

【屋外移動】

(372件中)

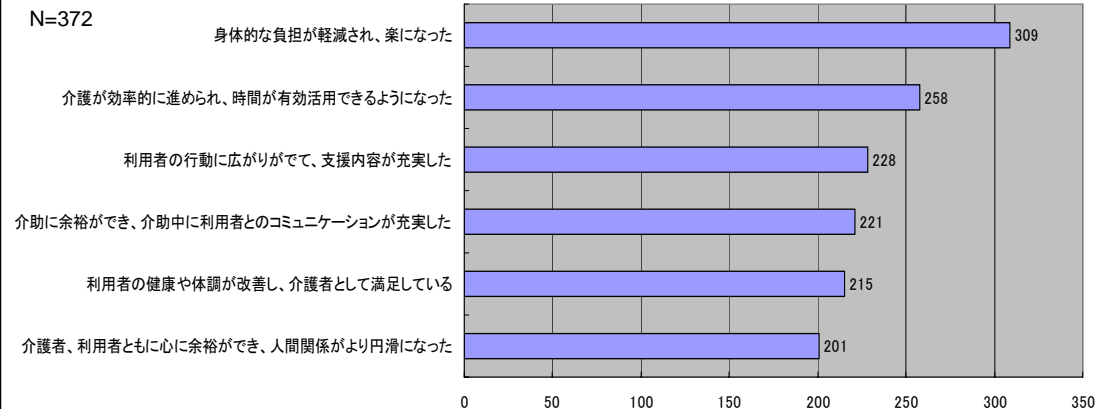
- ・「楽になった」件数:207件
 - 身体的負担の軽減 144件
 - 心理的負担軽減 71件
 - 時間の短縮 69件
- ・ADLが向上していない事例でも、楽になったという回答が6割以上ありました。
- ・ADLが向上しなくても、身体的負担軽減は5割、心理的負担軽減や時間の短縮も3割以上ありました。

満足度の向上

・利用者のADL改善の有無によらず、「**身体的な負担の軽減**」が大きくなっています。介護者の年齢が高いほど、この割合が高くなっています。

・「**介護の効率化・時間の有効活用**」も、ADL改善によらず、6割以上の介護者が感じています。

・居宅内の移動や屋外移動が改善した場合に、「**利用者の行動の広がり・支援内容の充実**」を感じる介護者が多くなっています。



車いすの利用効果(3)

【事例の紹介】

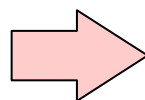
ケース1:Aさん(88歳、女性、要介護4)の場合

主な介護者:娘 利用しているサービス:デイケア、訪問リハビリテーション
利用期間:8ヶ月 併用している用具:特殊寝台、スロープ

【利用前の状態】

排泄 :行わず
移乗 :行わず
居宅内移動:行わず
屋外移動 :行わず

脳出血後遺症で左半身麻痺で、離床ができず、寝たきりの状態でした。



【利用後の状態】

排泄 :見守り
移乗 :見守り
居宅内移動:見守り
屋外移動 :見守り

特殊寝台を利用し自分で離床できるようになり、車いすによりトイレまでの移動も1人で可能になりました。

【主な効果】

- ・ADLが大幅に向上しました。
- ・質的にも、動作の内容が高度化・拡大しました。
- ・行動が多様になりました。
- ・当初、外出や家族以外とのコミュニケーションをしていませんでしたが、利用後は週3回外出し、約20時間コミュニケーションをしています。
- ・当初、訪問介護を利用していましたが、現在は利用していません。
- ・介護者(娘)の負担が軽減し、仕事にいけるようになりました。

【ポイント】

- ・利用開始後、居宅内のバリアフリー環境を改善したことにより、居宅内移動が可能となりました。
- ・特殊寝台の併用、デイケア、訪問リハ等のサービス利用との相乗効果が考えられます。

【事例紹介】 車椅子の利用効果

ケース2 : Bさん(76歳、女性、要介護3)の場合

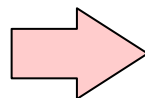
主な介護者: 夫
利用期間: 4ヶ月

利用しているサービス: デイサービス
併用している用具: 特殊寝台

【利用前の状態】

起居 : 一部介助
排泄 : 一部介助
移乗 : 見守り
居宅内移動 : 見守り
屋外移動 : 見守り

右麻痺のためすべての行動が不安点で意欲が低い状態でした。



【利用後の状態】

起居 : 自立
排泄 : 見守り
移乗 : 自立
居宅内移動 : 自立
屋外移動 : 自立

移乗、居宅内移動、屋外移動が自立して行えるようになりました。

【主な効果】

- ・要介護度3から要介護1まで改善しました。
- ・自立度が高まることにより意欲が向上し、動きもスムーズになりました。
- ・車いすの利用により外出する機会が増え、心的ストレスが軽減しました。
- ・明らかに表情が明るくなり、自立への意欲が高まりました。

【ポイント】

- ・自立度が高まることによって、精神面で大きな効果が得られています。

【事例紹介】 車椅子の利用効果

ケース3 : Cさん(76歳、女性、要介護3)の場合

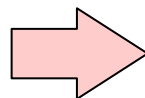
主な介護者:ヘルパー
利用期間: 7ヶ月

利用しているサービス:デイサービス
併用している用具:特殊寝台

【利用前の状態】

起居 : 全介助
排泄 : 全介助
移乗 : 全介助
居宅内移動 : 全介助
屋外移動 : 全介助

下肢筋力の低下により、すべて全介助の状態でした。



【利用後の状態】

起居 : 自立
排泄 : 口頭指示
移乗 : 見守り
居宅内移動 : 自立
屋外移動 : 自立

起居、居宅内移動、屋外移動が自立して行えるようになりました。

【主な効果】

- ・ADLが大幅に向上し、要介護3から要介護2まで改善しました。
- ・自力での移乗・移動が出来るようになり生活が大きく変わり、車いすでの移動が容易にできることで、自立した生活が送れるようになりました。

【ポイント】

- ・車いすが利用できる環境に恵まれていたことで、スムーズに導入でき、移動の自立につながりました。

車いすの利用効果

【事例の紹介】

そのほかにも、以下のような事例が報告されています。

	年齢	性別	要介護度	併用している福祉用具	ADLの変化		効果・変化の内容など
					移動	屋外移動	
1	91	女	要介護1	特殊寝台	一部介助 → 自立	—	福祉用具を利用することにより、居間に1人で行けるようになるなど本人の自立が可能となり、農業を行う家族の介護負担が大幅に軽減された。現在の福祉用具がなければ、本人を家に残し仕事に出ることができなくなる。
2	78	男	要介護3	特殊寝台	全介助 →一部介助	全介助 →一部介助	車椅子の使用と住宅改修により台所・トイレの移動が楽になり行動範囲が増え、一人で出来る事が増えた。家族の介護負担が軽減した。通所リハビリを利用できるようになり、友達が増え、時間の有効活用ができるようになった。
3	65	男	要介護3	特殊寝台・歩行補助具	一部介助 → 自立	一部介助 → 見守り	新幹線を利用して遠方へ出かける等の自信がついた。
4	91	女	要介護3	特殊寝台	一部介助 → 自立	行わず →一部介助	自力で移動出来なかったが、移乗・移動が可能になった。活動的な生活を送れるようになった。介助者への負担が楽になり、また気兼ねしなくて良くなった。
5	78	女	要介護3	特殊寝台	—	行わず →一部介助	外出する機会が増えた。自身で出来る事が増えた。身体の状態が改善し、ディサービスに通う意欲が出てきた。
6	64	男	要介護3	特殊寝台	一部介助 → 見守り	一部介助 →一部介助	生活意欲の向上(元々、料理屋を営んでおり、再開する為リハビリを頑張っておられます)
7	75	男	要介護3	特殊寝台	全介助 →一部介助	一部介助 →一部介助	外出が可能になり、外出の機会が増えた。嚥下障害があったが、通所リハにて口腔機能向上にて良好を保っている。車いすがないと歩行出来ないが、屋内はもとより、外出が出来る様になって非常にうれしい。
8	85	男	要介護4	特殊寝台	一部介助 → 見守り	全介助 →一部介助	1人でトイレまで行く事ができるようになった。動作がスムーズにできる事により本人明るくなった。車イスを利用する事により負担軽減され介護に余裕がもて、介護者の表情もやさしくなった。
9	50	男	要介護5	特殊寝台	全介助 →一部介助	行わず → 全介助	立ち上がりがほぼ1人でできるようになった。外出することが全くできなかったが、スロープを利用することで、外に出ることが可能となり、閉じこもりがちであった生活に明るさが見られるようになった。

3. 福祉用具の利用効果について

特殊寝台

- 利用効果の全体像
- 利用者本人に対する効果
- 介護者に対する効果
- 効果の事例

特殊寝台の利用効果

～特殊寝台を利用することにより、以下のような効果が期待されます～

【利用者本人にとっての効果】

ADLの向上

<効果の大きいもの>

- ・起居
- ・移乗
- ・排泄

<効果のあるもの>

- ・排泄
- ・食事



要介護度の維持・改善

生活の変化

<用具の利用状況の変化>

- ・横になっている時間の短縮
- ・座っている時間の増加



<生活自立度の質的な変化>

- ・生活行動が意欲的になる
- ・活動時間が長くなる

満足度の向上

自立して生活しようという意識の高まり
気兼ねなく気楽に生活できる
自分のペースで生活しやすくなる
体を動かす機会が増え体調がよくなる
社会とのつながりを感じる
生活についての不安・不満の軽減

【介護者にとっての効果】

介護負担の軽減

起居→

- ◎身体的負担軽減
- 時間の短縮・効率化
- 心理的負担軽減

排泄→

- ◎身体的負担軽減
- 心理的負担の軽減
- 時間の短縮・効率化

移乗→

- ◎身体的負担軽減
- 時間の短縮・効率化
- 心理的負担軽減

満足度の向上

- ・介助に余裕ができコミュニケーションが充実
- ・利用者の行動の広がり支援内容が充実
- ・身体的負担が軽減し楽になる
- ・介護が効率化でき、時間が有効活用できる
- ・心の余裕・人間関係の円滑化
- ・利用者の状態の改善に満足

特殊寝台の利用効果

【利用者本人にとっての効果(1)】

- 409件の特殊寝台の利用事例※から、以下のようなことが明らかになっています。
 - 特殊寝台の利用者は、要介護2～4の方が多く、それぞれ全体の2割程度を占めています。
- ※利用期間はケースにより異なりますがおよそ6ヶ月です。
※特殊寝台以外の福祉用具を併用しているケースも含みます。
※他の介護保険サービスも利用しているケースも含みます。

特殊寝台利用事例のADL改善の状況

※詳細は次のページのデータをご参照ください

【起居】

- ・該当事例341件中 226件が改善し、98件が維持しています。
- ・「一部介助」→「見守り」「自立」、「全介助」→「一部介助」の例がかなり多くあります。
- ・「見守り」→「自立」の例も多いです。
- ・「全介助」「一部介助」→「見守り」「自立」など、大幅に改善する割合が高く、「行わず」から「見守り」「自立」に改善した例もありました。

【移乗】

- ・該当事例107件中 69件が改善し、32件が維持しています。
- ・「全介助」→「一部介助」「見守り」、「一部介助」→「見守り」「自立」が多いです。
- ・「行わず」→「一部介助」の事例もあり、生活の変化につながっています。
- ・全体として「見守り」「自立」まで改善する例が多くなっています。

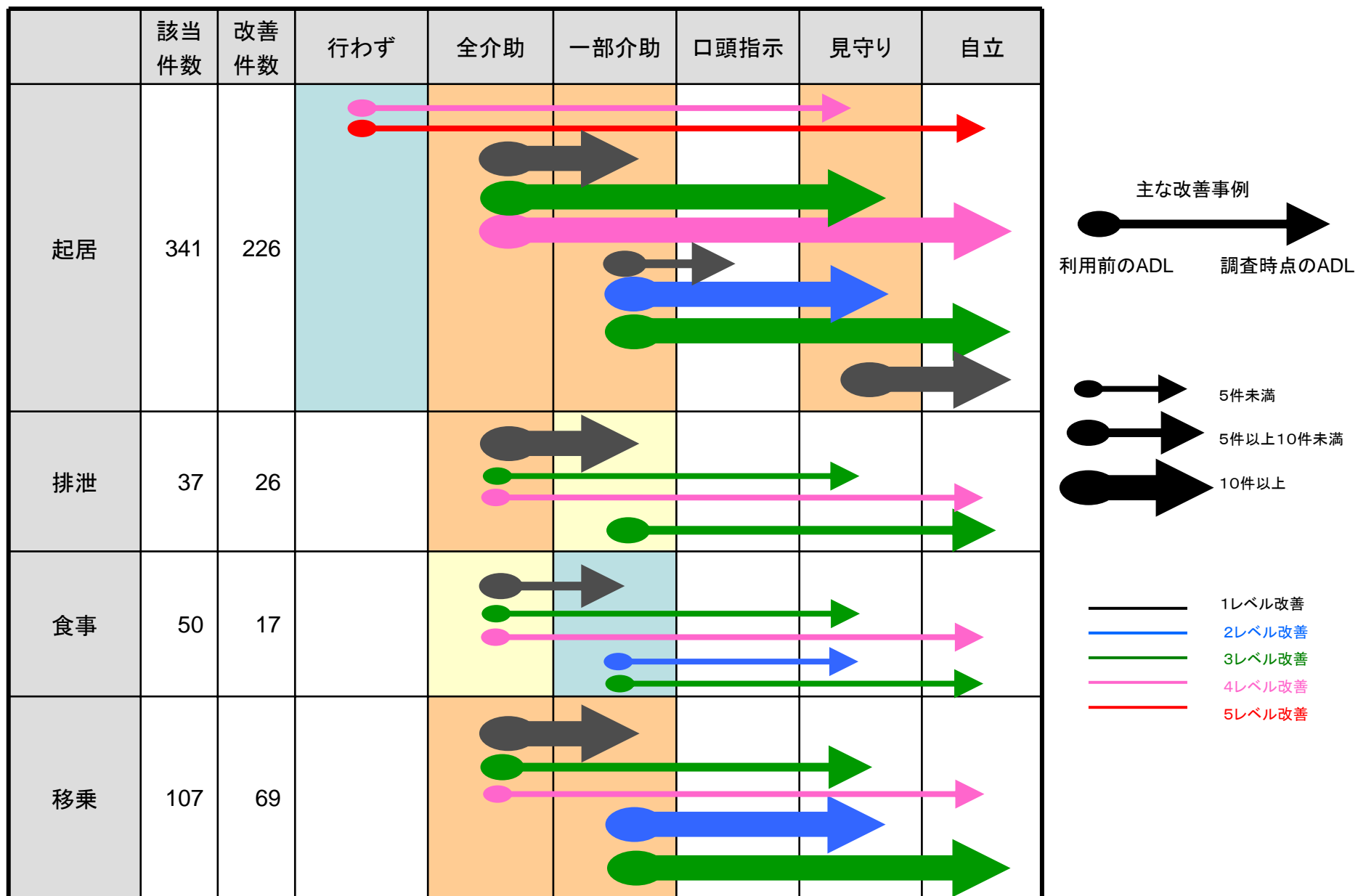
【食事】

- ・該当事例50件中 17件が改善し、29件が維持しています。
- ・改善した事例の中では、「全介助」「一部介助」から、「見守り」「自立」まで、大幅に改善する割合が高くなっています。

【排泄】

- ・該当事例37件中 26件が改善し、9件が維持しています。
- ・「全介助」→「一部介助」、「一部介助」→「自立」「見守り」となる例が多くあります。
- ・全体として「見守り」「自立」まで改善する例が多くなっています。

参考データ: 特殊寝台利用事例のADL改善の分野と程度



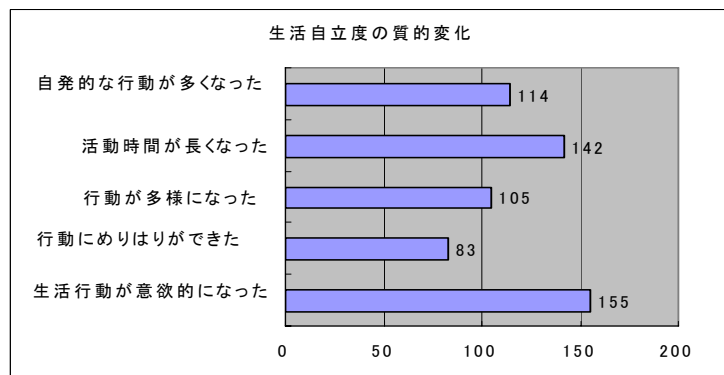
生活の変化

【特殊寝台利用状況の変化】 (409件中)

- ・1日の利用頻度が増加した:
件数89件 平均4.5回→4.7回
- ・1日のうち横になっている時間が減少した:
件数26件 平均13.9時間→12.2時間
- ・1日のうち座っている時間が増加した:
件数103件 平均4.4時間→5.4時間

【生活の変化】

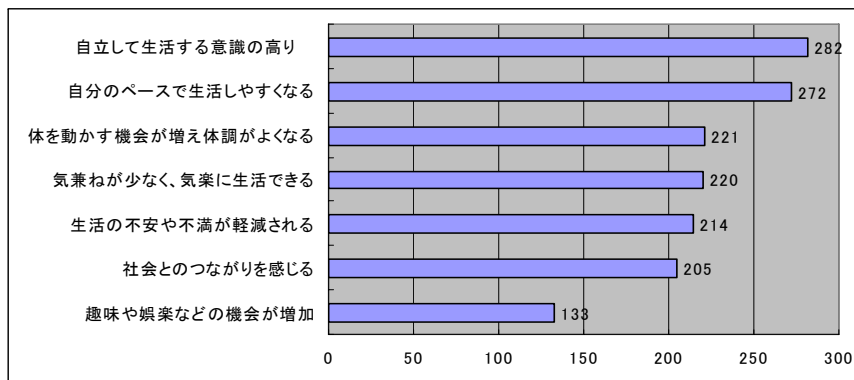
- ・生活自立度が向上した:94件
- ・生活の自立度の質的な変化:



- ・1週間の外出の頻度が増加した:
件数169件 平均1.9回→3.1回
- ・家族以外とのコミュニケーションが増加した:
件数121件 平均6.3時間→9.5時間/週

満足度の向上

【利用者本人の満足度】 (409件中)



「起居」が改善した場合には・・・

- ・「自立して生活する意識が高まった」
 - ・「自分のペースで生活できるようになった」
 - ・「体を動かす機会が増えて、体調がよくなった。」
- という回答の割合が高くなっています。

「移乗」が改善した場合には・・・

- ・「自立して生活する意識が高まった」
 - ・「家族や社会とのつながりが感じられるようになった」
 - ・「体を動かす機会が増え、体調がよくなった」
- という回答の割合が高くなっています。

特殊寝台の利用効果(3)

【介護者にとっての効果】

- 409件の特殊寝台の利用事例※から、以下のようなことが明らかになっています。
- 主な介護者は、利用者の子もまたは子どもの配偶者で、50歳～70歳の女性が多くなっています。

※利用期間はケースにより異なりますがおよそ6ヶ月です。
※特殊寝台以外の福祉用具を併用しているケースも含まれます。
※他の介護保険サービスも利用しているケースも含まれます。

介護負担の軽減

【起居】

(409件中)

- ・「楽になった」件数:357件
 - 身体的負担の軽減 329件
 - 心理的負担軽減 148件
 - 時間の短縮 142件
- ・利用者のADLが向上した場合に限らず、向上しない場合でも、「楽になった」という回答が多く、特に身体的な負担が軽減しています。

【移乗】

(409件中)

- ・「楽になった」件数:255件
 - 身体的負担の軽減 108件
 - 心理的負担軽減 33件
 - 時間の短縮 52件
- ・ADLが向上した場合に限らず、向上していない事例でも楽になり、特に身体的負担が軽減しています。
- ・車いすと特殊寝台を利用している場合、より負担感の軽減、時間短縮が見られます。

【排泄】

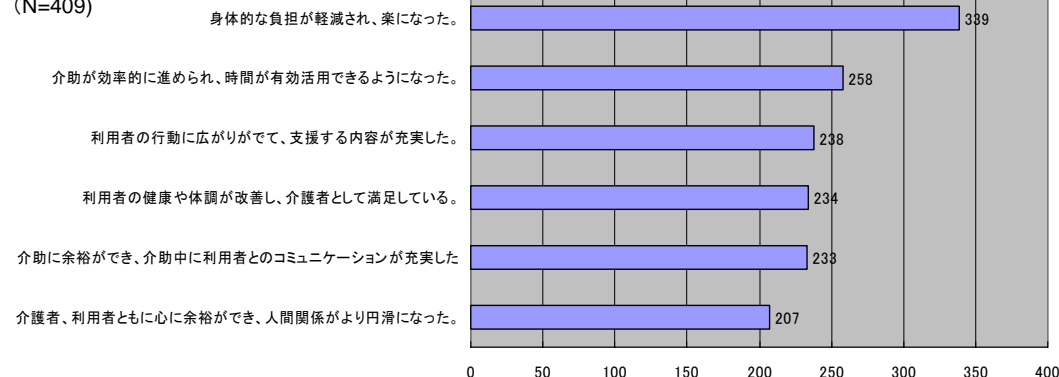
(409件中)

- ・「楽になった」件数:217件
 - 身体的負担の軽減 168件
 - 心理的負担軽減 102件
 - 時間の短縮 96件
- ・ADLの向上の有無によらず、「楽になった」という回答が多く、身体的な負担感の軽減の割合が高くなっています。
- ・ADLが向上していない場合でも、心理的負担軽減や時間短縮したという回答が多く見られました。

満足度の向上

- ・利用者のADL改善の有無によらず、「**身体的な負担の軽減**」が大きくなっています。
- ・「**介護の効率化・時間の有効活用**」も、ADL改善によらず、4割以上の介護者が感じています。
- ・**食事に特殊寝台を活用している事例では、身体的負担の軽減ばかりでなく「コミュニケーションの充実」「利用者の体調の改善」などが感じられるという回答も多くなっています。**

(N=409)



【事例紹介】 特殊寝台の利用効果

ケース4 : Dさん(76歳、男性、要介護3)の場合

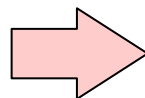
主な介護者:妻
利用期間: 10ヶ月

利用しているサービス:訪問入浴・ショートステイ・訪問診療
併用している用具:エアーマット

【利用前の状態】

起居 :全介助
入浴 :全介助
移乗 :全介助
居宅内移動 :全介助

慢性肝炎、床ずれ、アルコール依存症、変形性腰椎症などがありました。



【利用後の状態】

起居 :見守り
入浴 :一部介助
移乗 :一部介助
居宅内移動 :一部介助

起居、入浴、移乗、居宅内移動のADLが大幅に改善しました。

【主な効果】

- ・ADLが改善し、要介護5から要介護2まで改善しました。
- ・エアーマットを使用し、リハビリを受けた結果、床ずれが完治しました。
- ・訪問入浴の利用により、入浴できるようになりました。
- ・ショートステイを利用して外出ができるようになりました。
- ・家族との会話も増えました。

【ポイント】

- ・適した用具やサービスの活用と介護者の努力の結果、みちがえる程(別人のように)改善した事例です。

【事例紹介】 特殊寝台の利用効果

ケース5 : Eさん(76歳、男性、要介護2)の場合

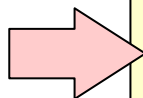
主な介護者:妻、息子
利用期間: 7ヶ月

利用しているサービス:通所リハ
併用している用具:歩行補助具

【利用前の状態】

起居 :全介助
食事 :全介助
排泄 :全介助
移乗 :全介助
移動 :一部介助
屋外移動 :一部介助

脳梗塞による左上下肢マヒの状態でした。



【利用後の状態】

起居 :自立
食事 :自立
排泄 :自立
移乗 :自立
移動 :自立
屋外移動 :自立

すべての動作が自立して行えるようになりました。

【主な効果】

- ・要介護度は変化していませんが、ADLが大幅に向上し、「生活行動が意欲的になった」「行動にめりはりができた」「行動が多様になった」「活動時間が長くなった」「自発的な行動が多くなった」と報告されています。
- ・起居、排泄、食事、更衣において介護者の負担も軽減されています。

【ポイント】

- ・「現在のレンタル用品があるからこそ生活が成り立っている」というコメントがありました。

【事例紹介】 特殊寝台の利用効果

ケース6 : Fさん(68歳、女性、要介護4)の場合

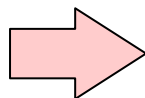
主な介護者: 夫
利用期間: 6ヶ月

利用しているサービス: デイサービス・配食
併用している用具: なし

【利用前の状態】

起居 : 全介助
食事 : 一部介助

平成19年3月に転倒し、腰椎圧迫骨折しました。



【利用後の状態】

起居 : 自立
食事 : 自立

起居、食事が自立して行えるようになりました。

【主な効果】

- ・起居、食事のADLが大幅に改善し、要介護4から要介護1まで改善しました。
- ・腰痛があり、起き上がり困難でしたが、腰痛が楽になり、食事をベッド上で摂ることができるようになりました。
- ・一人で起き上がりができ、トイレに行くことができるようになりました。訪問介護による排泄ケアを受けなくてすむようになりました。

【ポイント】

- ・トイレに行くことができるようになったことは、夫の介護負担を軽減するとともに本人の自信につながりました。

特殊寝台の利用効果

【事例の紹介】

そのほかにも、以下のような事例が報告されました。

年齢	性別	要介護度	併用している福祉用具	ADLの変化		効果・変化の内容など	
				移動	食事		
1	79	女	要介護1		一部介助 → 自立	—	疾病によって朝、夜の動作時に痛みがひどく、介護が必要な状態だったが、今は苦痛無く行える。関節への負担減と痛みの緩和によって、動作量が増加。起居動作が負担なく出来るようになったことで、浮腫、痛み、転倒が減った。動作が楽に出来るという事は色々な場面においてプラスである。苦痛をとると精神面の安定と意欲も出て、本人の生活が明るくなる。途中中止していたお華、お茶の教室も再会して、生きがいを持てるようになった。
2	76	女	要介護2		一部介助 → 口頭指示	—	布団での生活から、ベッドの導入。起居動作に時間がかかっていたが、スムーズに行える事により、排泄時、失禁が減少。洗濯・更衣等、付随の動作、介護が減少し、ゆとりができた。
3	105	男	要介護2		全介助 → 見守り	一部介助 → 自立	高齢であり、脳梗塞発症当時は本人・家族も寝たきりになることを予想していたが、電動ベッドによる起居動作が自立したことで意欲回復→離床へとつながった。
4	92	男	要介護2		一部介助 → 見守り	—	介護ベッドの使用により自身での起居動作の負担が減少し、室内での移動が多くなり、QOLの向上がみられる。寝室以外にリビングや別の部屋へ移動が可能になり、心身共に負担が減少したと本人より話があった。
5	79	男	要介護2		一部介助 → 見守り	—	布団からの起き上がり・立ち上がり動作時、呼吸困難になり酸素飽和度の数値が低下していたが、酸素飽和度の上昇がみられた。利用前は、起居動作のつらさからほとんど布団で一日を過ごし、食卓に座る事も少なかったが、ベッド使用により動作がスムーズになり、食卓まで1人で行く事ができるようになり、食欲がでてきたという効果もあった。安楽に動作が行える様になり妻に対する強い口調が減った。
6	88	女	要介護2		全介助 → 自立	—	骨折後のため自力で動けず寝てる時間が多かったが、少しでも離床を心がけているため歩く時間が長くなり、以前よりも足の運びが良くなった。離床が行いやすくなったため、食事等、家族いっしょに取れる様になった。起き上がり、立ち上りが自分で出来るため、家族に気がねせず自分の時間で動ける。
7	76	男	要介護3		一部介助 → 口頭指示	一部介助 → 自立	介護ベッドを使用することで動作がスムーズになった。導入前は、市販の家具ベッドで高さも低く、立ち上がる際、支持物もなく、転倒もしばしばあり、起居動作も一部介助が必要で大変だった。導入後は、背上げリモコンをうまく利用し、転倒のリスクも減り、介護者の負担軽減にもつながり、かなりの効果があったようだ。

特殊寝台の利用効果

【事例の紹介】

	年齢	性別	要介護度	併用している福祉用具	ADLの変化		効果・変化の内容など
					移動		
8	80	男	要介護3		一部介助 → 見守り	—	ベッドを導入した事により自力で起立、歩行までの動作ができるようになった。いままでふとんだっただけで起き上がるまでの介助、時間等がかかっていたが、ベッドになって楽になり、トイレまでの移動の際の失禁が減った。パーキンソン病により日によって体調等ちがうが、ベッドの高さを調整する事によって、自力で介助バーにつかまり起立ができるようになり、家族の介護負担の軽減、日常生活の自立度の低下は予防でき、本人の日常生活意欲の向上が見られる。
9	75	男	要介護4		一部介助 → 自立	—	福祉用具を利用することで残存能力を活用し、自分でできる動作が増え、介護負担が軽くなった。筋力がつき、自分でできることが増えた。自分で寝起きができ、室内を伝い歩きで移動ができる。ベッドから離れている時間が長くなった。そのため、意欲が向上し、活動性が高まった。
10	97	女	要介護4		全介助 → 一部介助	—	オムツ交換、更衣の介助、介助者の負担の軽減。ギャジアップを使用する事で本人にも笑顔が見えるようになった。ヘルパーサービスを受けなくてもよくなり、床ずれもよくなったため、訪問看護の回数も減らす事が出来た。家族の介護だけで本人を見守る事ができるようになったのは、ベッドのおかげと意見をいただいた。
11	79	男	要介護4	車いす・歩行補助具	一部介助 → 見守り	食事：一部介助 → 自立	起居動作が自力でできる。介護度は同じだが、自立できることが多くなった。離床できることで、床ずれの心配がなくなった、身体を動かせるようになり、趣味など何かしたいという意欲が出てきた。通院だけでなく散歩にも出かけられる。
12	85	女	要介護5	車いす	行わず → 一部介助	食事：全介助 → 見守り	福祉用具にて環境整備をし、在宅生活に定着する事により、介護負担軽減が図れた。家族は本人の体調を見ながらなるべく利用して過ごせるよう積極的な介護をし、本人も離床することにより身体面で体力が増加した様子。よってディサービス利用回数も増え、より社会面での交流も多くなった。
13	82	男	要介護5	車いす	行わず → 全介助	—	布団で生活していた頃は、起居動作に時間がかかることや、本人も辛いとの理由で、寝たきりの生活に近かったが、ベッドや車いすを導入する事で生活スタイルに変化が見られた。現在は、パーキンソンが進行しており、3ヶ月前と比べると寝ている時間は増えてはいるが、今だ床ずれはできておらず、福祉用具はかかせないサービスとなっている
14	88	女	要介護5		全介助 → 一部介助	移乗：行わず → 一部介助	ベッドから離れて食卓で食事やトイレでの排泄が可能になった。利用者の意欲が湧き、介護者の声かけに対して前向きに取り組むようになり、表情が明るくなり笑顔が増えた。

3. 福祉用具の利用効果について

歩行補助具

- 利用効果の全体像
- 利用者本人に対する効果
- 介護者に対する効果
- 効果の事例

歩行補助具の利用効果

～歩行補助具を利用することにより、以下のような効果が期待されます～

【利用者本人にとっての効果】

ADLの向上

<効果の大きいもの>

- ・移動(居宅内)
- ・屋外移動
- ・排泄

<効果のあるもの>

- ・起居



要介護度の維持・改善

生活の変化

<用具の利用状況の変化>

- ・利用頻度の増加
- ・利用時間の増加

<生活自立度の質的な変化>

- ・生活行動が意欲的になる
- ・活動時間が長くなる
- ・外出の機会が増える

満足度の向上

自立して生活しようという意識の高まり
気兼ねなく気楽に生活できる
自分のペースで生活しやすくなる
体を動かす機会が増え体調がよくなる
社会とのつながりを感じる
生活についての不安・不満の軽減

【介護者にとっての効果】

介護負担の軽減

居宅内移動→◎身体的負担軽減
○心理的負担軽減
○時間の短縮・効率化

屋外移動→ ◎身体的負担軽減
○心理的負担軽減
○時間の短縮・効率化

移乗→ ◎身体的負担軽減
○心理的負担軽減
○時間の短縮・効率化

満足度の向上

・介助に余裕ができコミュニケーションが充実
・利用者の行動の広がり支援内容が充実
・身体的負担が軽減し楽になる
・介護が効率化でき、時間が有効活用できる
・心の余裕・人間関係の円滑化
・利用者の状態の改善に満足

歩行補助具の利用効果

【利用者本人にとっての効果(1)】

- 287件の歩行補助具の利用事例※から、以下のようなことが明らかになっています。
 - 歩行補助具の利用者は、要支援、要介護1～2の方が多く、それぞれ全体の2割程度を占めています。
- ※利用期間はケースにより異なりますがおよそ6ヶ月です。
※歩行補助具以外の福祉用具を併用しているケースも含みます。
※他の介護保険サービスも利用しているケースも含みます。

歩行補助具 利用事例の ADL改善の 状況

※詳細は次のページの
データをご参照ください

【移動(居宅内)】

- ・該当事例158件中 106件が改善し、49件が維持しています。
- ・「見守り」→「自立」が最も多く、「一部介助」→「自立」「見守り」の事例も多数、見られます。
- ・「行わず」→「見守り」、「全介助」→「自立」など、大幅に改善する例もあり、生活の変化につながっています。
- ・全体として「見守り」「自立」まで改善する事例が多く見られました。

【屋外移動】

- ・該当事例119件中 67件が改善し、50件が維持しています。
- ・「見守り」→「自立」が最も多く、「一部介助」→「見守り」「自立」となる例も多く見られます。
- ・「行わず」「全介助」→「見守り」の事例もあり、大幅に改善する例もあります。
- ・全体として「見守り」「自立」まで改善する事例が多く見られました。

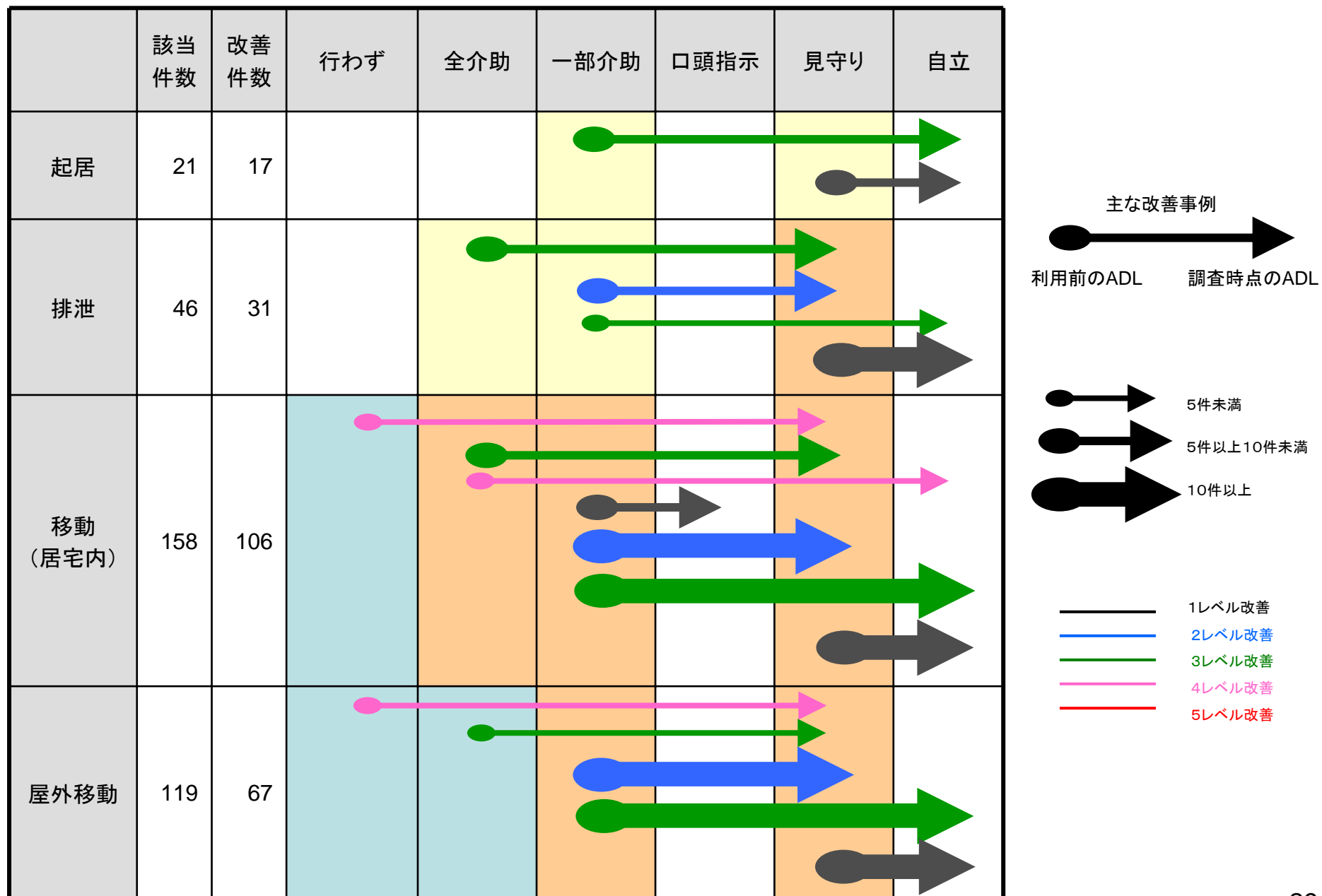
【排泄】

- ・該当事例46件中 31件が改善し、15件が維持しています。
- ・「見守り」→「自立」となる例が多くなっています。
- ・「全介助」→「見守り」、「一部介助」→「見守り」「自立」など、改善が見られます。
- ・全体として、「見守り」「自立」まで改善する例が多くなっています。

【起居】

- ・「一部介助」から、「見守り」「自立」まで、大幅に改善した例があります。

参考データ: 歩行補助具利用事例のADL改善の分野と程度



歩行補助具の利用効果(2)【利用者本人にとっての効果(2)】

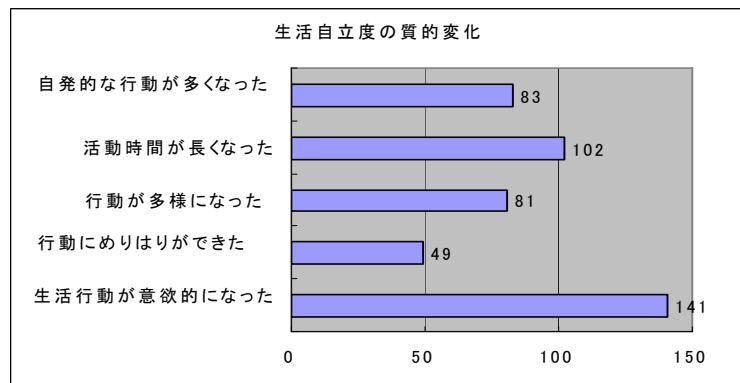
生活の変化

【歩行補助具利用状況の変化】 (287件中)

- ・一週間の利用頻度が増加した:
件数55件 平均8.3回→9.4回
- ・1週間の利用時間が増加した:
件数59件 平均16.0時間→21.8時間

【生活の変化】

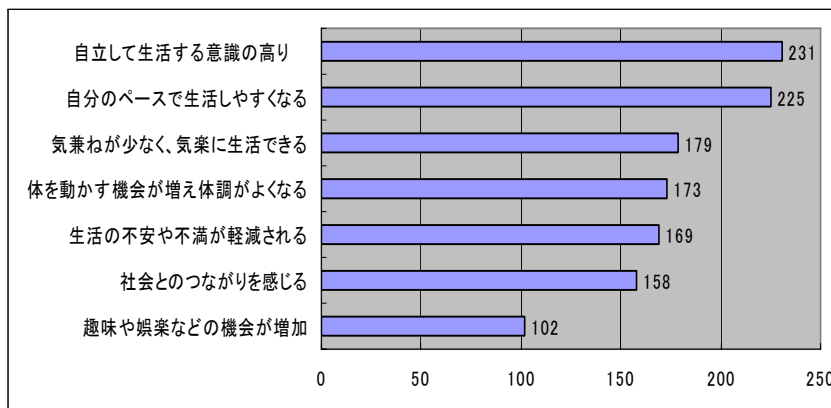
- ・生活自立度が向上した:64件
- ・生活の自立度の質的な変化:



- ・1週間の外出の頻度が増加した:
件数146件 平均2.9回→4.5回
- ・家族以外とのコミュニケーションが増加した:
件数91件 平均6.0時間→8.3時間/週

満足度の向上

【利用者本人の満足度】 (287件中)



「移動(居宅内)」が改善した場合には…

- ・「自分のペースで生活しやすくなった」
 - ・「自立して生活しようという意識が高まった」
 - ・「生活の不安や不満が軽減・解消した」
- という回答の割合が高くなっています。

「屋外移動」が改善した場合には…

- ・「自立して生活する意識が高まった」
 - ・「自分のペースで生活しやすくなった」
 - ・「社会とのつながりが感じられるようになった」
- という回答の割合が高くなっています。

「排泄」に歩行補助具を利用している事例では、「自立して生活する意識」「自分のペースで生活」のほか「気兼ねなく気楽に生活できる」という回答が多く見られました。

歩行補助具の利用効果

【介護者にとっての効果】

- 287件の歩行補助具の利用事例※から、以下のようなことが明らかになっています。
- 主な介護者は、利用者の子どもまたは子どもの配偶者で、50歳～70歳の女性が多くなっています。

※利用期間はケースにより異なりますがおよそ6ヶ月です。
※歩行補助具以外の福祉用具を併用しているケースも含まれます。
※他の介護保険サービスも利用しているケースも含まれます。

介護負担の軽減

【移動(居宅内)】

(287件中)

- ・「楽になった」件数: 167件
 - 身体的負担の軽減 139件
 - 心理的負担軽減 72件
 - 時間の短縮 62件

・ADLが向上している場合だけでなく、向上していない場合でも、半数以上の介護者の負担が軽減しています。
・歩行補助具と特殊寝台を利用している場合、より負担感が軽減しています。

【屋外移動】

(287件中)

- ・「楽になった」件数: 173件
 - 身体的負担の軽減 144件
 - 心理的負担軽減 71件
 - 時間の短縮 69件

・ADLの改善の有無によらず、7割近くの介護者が「楽になった」と回答しています。
・特に身体的負担は大幅に軽減されています。

【排泄】

(287件中)

- ・「楽になった」件数: 94件
 - 身体的負担の軽減 68件
 - 心理的負担軽減 49件
 - 時間の短縮 44件

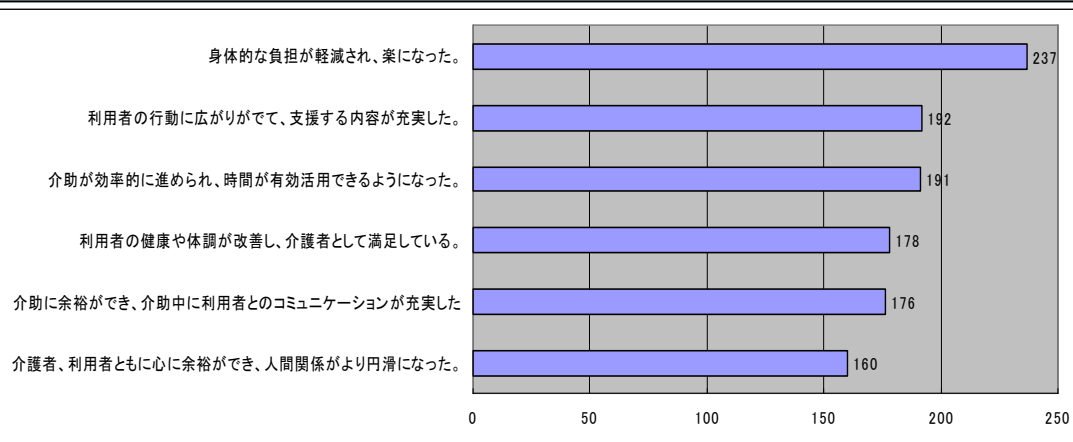
・排泄に歩行補助具を利用している場合、特にADLが向上した事例で、負担軽減の割合が高くなっています。
・身体的負担ばかりでなく、心理的負担の軽減、時間の短縮も見られます。

満足度の向上

・全体として、「身体的な負担の軽減」の割合が非常に高くなっています。

・居宅内の移動や屋外移動に利用している事例では、ADL改善の有無によらず、「利用者の行動の広がり・支援内容の充実」を感じる介護者が多くなっています。

・「介護の効率化・時間の有効活用」も、ADL改善によらず、約6割～7割の介護者が感じています。



【事例紹介】 歩行補助具の利用効果

ケース7 : Gさん(75歳、男性、要介護1)の場合

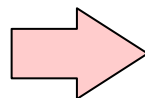
主な介護者:妻、娘
利用期間: 7ヶ月

利用しているサービス:訪問介護
併用している用具:なし

【利用前の状態】

起居 :一部介助
排泄 :一部介助
移動 :一部介助
屋外移動 :行わず

大腿骨頸部骨折により、起居、排泄、移動が一部介助の状態でした。



【利用後の状態】

起居 :自立
排泄 :見守り
移動 :見守り
屋外移動 :見守り

起居が自立し、排泄、移動が見守りになりました。
屋外移動が見守りにより可能になりました。

【主な効果】

- ・ADLが大幅に向上し、要介護1から要支援に改善しました。日常生活はほぼ自立出来るようになり、時々散歩にも出かけるようになりました。
- ・入院生活により筋力低下及び痛みが見られましたが、歩行器を利用し、日常生活でのリハビリが行えた事により筋力も回復しました。現在では四点杖を利用する事によりほぼ日常生活は自立しており、介助者の介護の軽減にもつながっています。

【ポイント】

- ・歩行器を利用することにより、日常生活の中でのリハビリを行うことができ、筋力が回復した事例です。

【事例紹介】 歩行補助具の利用効果

ケース8：Hさん(84歳、女性、要介護1)の場合

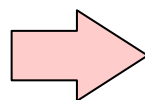
主な介護者： 不明
利用期間： 6ヶ月

利用しているサービス：訪問介護
併用している用具：車いす

【利用前の状態】

起居 : 見守り
排泄 : 見守り
移動 : 見守り
屋外移動 : 行わず

両下肢変形性膝関節症により痛みが強い状態でした。



【利用後の状態】

起居 : 自立
排泄 : 自立
移動 : 自立
屋外移動 : 全介助

用具の利用により痛みが軽減し、居宅内での動作が自立したほか、介助により外出できるようになりました。

【主な効果】

- ・要介護度は変化していませんが、起居、排泄、移動が自立して行えるようになりました。
- ・下肢の痛みをこらえながら、見守りにより自力で動作していましたが、福祉用具導入により、痛みの軽減につながったため、自立することができました。
- ・痛みの軽減によって、家事などの意欲が湧いてきており、良い影響をもたらしています。通院、買い物など、外出の頻度も増えました。

【ポイント】

- ・用具を利用することにより、痛みが軽減することで、動作が自立するばかりでなく、家事などに積極的に取り組む意欲が湧いてきた事例です。
- ・室内では歩行補助具、外出時には車いすを利用し、行動範囲が広がっています。

【事例紹介】 歩行補助具の利用効果

ケース9 : I さん(60歳、男性、要介護3)の場合

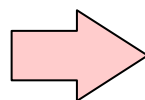
主な介護者:妻、娘
利用期間: 不明

利用しているサービス:住宅改修
併用している用具:車いす、特殊寝台

【利用前の状態】

起居 :一部介助
排泄 :一部介助
移動 :一部介助
屋外移動 :全介助

脳梗塞により、起居、排泄、移動が一部介助の状態でした。



【利用後の状態】

起居 :見守り
排泄 :見守り
移動 :自立
屋外移動 :見守り

起居、排泄は見守りまで、移動は自立まで改善しました。

【主な効果】

- ・ADLが向上し、要介護3から要介護1まで改善しました。
- ・当初は、筋力低下による痛みが大変で動こうともしませんでしたでしたが、リハビリの結果筋力アップしてきて動きもスムーズになりました。
- ・少しずつ遠くに出かけられるようになり、車いすの利用頻度が減り、返却するまでになりました。
- ・精神的に余裕が出てき、最近は笑顔がとても良く出るようになりました。

【ポイント】

- ・住宅改修により手すりを設置し、四点杖でトイレまでの往復動作など、意欲的に自分なりのリハビリを行い、出来るだけ動くことを心がけた結果、改善した事例です。

歩行補助具の利用効果

【事例の紹介】

そのほかにも、以下のような事例が報告されました。

	年齢	性別	要介護度	併用している福祉用具	ADLの変化		効果・変化の内容など
					移動	屋外移動	
1	83	女	要支援		見守り → 自立	—	転倒による骨折歴があり、恐怖感がみられていた。又、腰・両膝痛にて歩行に支障をきたしていた。歩行器利用後は、屋内移動時の安全面が確保され、転倒はみられない。また、転倒に対する恐怖感も軽減出来ている。安全・安心した移動手段が確保される事で、生活範囲の維持・拡大(食卓での食事時間が増加など)へとつながっており、起居動作後のADLをほぼ自立にて行う事が実現されている。
2	76	男	要支援		一部介助 → 自立	—	歩行不安定により、手ひき介助が必要であったが、歩行補助具の利用にて介助が必要なくなった。介護者の負担なく、自発的に移動出来るようになった為、自宅内を歩行して移動する機会が増加し、更なる下肢の筋力低下を防止できている。介護者も高齢であり、歩行の介助時に一緒に転倒してしまう恐れがあったが、その不安や負担がなくなった。ミニスロープの併用利用により、自宅内を歩行器でより安全に移動できるようになった。歩行器を使用しなかった場合、妻の身体的、精神的負担が大きく、訪問介護の利用の可能性があったが、自力で移動が可能になった事により、サービスが減り、又本人の意欲(自発的に動こうとする)の増加につながったと考えられる。
3	88	女	要介護1		一部介助 → 見守り	口頭指示 → 見守り	歩行運動困難であり以前は杖歩行であったが、歩行車を使い安定、安全性が確立され移動時の不安が無くなり外出頻度が増え意欲向上が見られる。長時間起立動作が行え、移動距離増加。介助頻度軽減。歩行運動増加に伴い、機能維持及びコミュニケーションを図る機会が作られている。
4	73	男	要介護2	車いす・ 特殊寝台	一部介助 → 見守り	一部介助 → 見守り	自立が少し楽しくなる。プールに行ってリハビリできるようになる。ディケアの利用回数が増加し、会話が多くなった。自発的に歩こうとする気持ちの向上が見られる。住宅改修(トイレの手すり・居間の手すり・段差解消)の併用による効果アップ。ショートステイの利用が週1回から月1回に減少した。
5	89	男	要介護2		一部介助 → 見守り	行わず → 見守り	全身筋力低下、著しくふらつき等で転倒する回数が多かったが、短距離ではあるが歩行器利用で転倒する回数が減り、日常生活レベルが以前に比べ高くなった。歩行器を利用することで日常生活での活動で筋力が回復、リハビリにもなりより自立した生活が送れるようになった。又、介護者の介護負担軽減された。通所リハの回数が週2回から1回に減少。

歩行補助具の利用効果

【事例の紹介】

年齢	性別	要介護度	併用している福祉用具	ADLの変化		効果・変化の内容など	
				移動	屋外移動		
6	70	男	要介護3	車いす	自立 → 自立	自立 → 自立	屋内にて4点杖で2、3歩程度しか歩けなかったのが、今は、屋外にて4点杖で30分は歩ける様になった。訪問リハの利用回数が半分程度に減った。
7	75	女	要介護3	特殊寝台	一部介助 → 自立	—	寝室から他室へ行く事が多くなった。リウマチがあり、各関節の変形・痛み・可動域制限がある中で、寝室から他室等へ行く事がとても楽になり「なくてはならない物」となっている。
8	83	女	要介護3	特殊寝台	全介助 → 見守り	全介助 → 一部介助	馬蹄型歩行器でもふらつきがあり不安定であったが、歩行車の利用となり、見守りでよくなった。馬蹄型歩行器を使用し、生活、リハビリを続けてきた事により、安定した歩行能力が向上してきており、歩行車へ変更可能となり、現在では1本杖での歩行訓練に取り組んでいる。起き上がり動作は、当初より自立に当たっていたが、立ち上がり時の補助を特殊寝台にて行い、身体への負担軽減を行ってきた結果の歩行状態の向上が達成できている。
9	75	女	要介護3		一部介助 → 見守り	一部介助 → 一部介助	移動が見守りで可能になり、ポータブルトイレからトイレでの排泄が出来るようになった。自分で家事を行う意欲が出た。用具を組み合わせることで、従前から使用していた自前の家具を引き続き使用もすることができ、介護者の援助を少なくすることができた。
10	82		要介護3	車いす・特殊寝台	全介助 → 自立	行わず → 一部介助	良くなりたいという意欲が高い。リハにて歩行器持込で頑張る。歩行器の利用を選定する事により歩く意欲がわいて来た。積極的にディサービスに歩行器を持ち込み歩行訓練をしている。関節のいたみもやわらいで筋力UPしている。なによりも笑顔が多くなった。

【複数の用具の併用による効果】

	年齢	性別	要介護度	利用している福祉用具	ADLの変化			効果・変化の内容など
					起居	排泄	移動	
1	93	2	要支援	車いす・歩行補助具	—	—	一部介助 →見守り	高齢者で介護者も福祉用具を効果的に用いることでお互いの負担軽減がはかれる。また通院時に今までタクシーを利用していた所車イスを用いるようになり、風を感じたり季節を感じる。家族との会話が増えるなど精神的な安定がはかれるようになった。また歩行器を使い自由に動けるようになると、急な天候の変化などで洗たくを取り入れ家族から感謝され家族の一員として実感でき、それ以降、積極的に家事を行うなど意識の変化が見られた。家族も何か家事をまかすことで介護される人する人のわけ方ではなくお互い助けられて生活できているということが感じられ良好な関係となっている。
2	56	2	要介護2	車いす・特殊寝台・歩行補助具	一部介助 →自立	—	一部介助 →見守り	トイレへはほぼ全介助であった移動が日中は見守り、夜間はポータブルトイレや一部介助にてOKとなった。当初本人の意欲が少なく精神的に内向的となっていたが、自宅での用具利用の効果から少しずつ介助者から自立していき、外出サービスや訪問サービスを導入して意欲向上し、介助者の負担も軽減された。
3	92	2	要介護2	車いす・特殊寝台・歩行補助具	一部介助 →自立	—	全介助 →見守り	高齢の母親を介護する初老の子供にとって身体的な負担より心理的な負担の軽減の効果が大きい。長期間に及ぶ介護生活を第三者の介入を極力少なくしても持続出来る様になっている。
4	70	2	要介護2	特殊寝台・歩行補助具	一部介助 →自立	—	一部介助 →自立	起居動作の介護負担が全くなかった。ADLの向上が著しく、介護度も介2→支2に上がることができた。ベッド、歩行器共、身体状況的に不要となり、11月末に解約となった。
5	70	1	要介護3	車いす・特殊寝台・歩行補助具	一部介助 →見守り	一部介助 →見守り	全介助→ 一部介助	起居動作に介助が不要となった。積極的に行動するようになり、生活にも張りが出て、表情も明るくなった。又、介助者の介護負担軽減により、コミュニケーションがより多く、より楽しい生活となった。
6	80	1	要介護3	車いす・特殊寝台	一部介助 →自立	全介助 →見守り	全介助 →自立	日中在宅時は独居状態になるので起居動作、移乗、移動が福祉用具で出来ることで、家族の介護負担もなく、自立した生活が送れている。
7	70	1	要介護3	車いす・特殊寝台	一部介助 →見守り	—	一部介助 →見守り	特殊寝台の利用は、離床を促すのに、大きな効果があった。体調が良い日は長距離も歩けるようになってきた。また夜間のトイレにも妻の介助なしで行える時もあり、介助者への負担も軽減された。車いす利用頻度も高く、外出に意欲的になったと言える。行きつけの喫茶店ではコミュニケーションの場としても効果が高く、本人の生活パターンの一つになっている。
8	84	1	要介護4	車いす・特殊寝台	一部介助 →自立	一部介助 →自立	一部介助 →自立	ベッド上での起居、ベッドから車いすへの移乗動作及び室内移動が自立した。介護負担が大幅に軽減されて精神的余裕ができた。本人の行動意欲も増し、気を遣わずに、車いすへの移乗やトイレへの車いすでの移動もできるため、利用開始時よりも性格がおだやかになった。
9	96	2	要介護5	車いす・特殊寝台・歩行補助具	全介助→ 一部介助	全介助 →自立	全介助 →口頭指示	床ずれ改善、離床時間増大、発語増加、表情が豊かになった。介護者の負担が劇的に軽減され、利用者に対する接し方に余裕がみられるようになった。
10	90	2	要介護5	車いす・特殊寝台	全介助→ 一部介助	一部介助 →一部介助	行わず →一部介助	本人が意欲的になってきた。車いすに移ったり、お気に入りのソファに座ったりする事ができるようになり、本人・家族の双方が前向きになっているのを感じる。